

立て直す。 国民の声とともに



自民党は衆院選と参院選に相次いで敗れました。自民党に足りなかったのは、国民の声を聞く力、国民の思いを感じ取る力ではないか。

今、国民の皆様が感じていること。物価高で生活が苦しい。老後の年金や医療はどうなるのか。外国人が増えて治安は大丈夫か。人口減少で地方が更に活力を失うのではないか。日々の生活に密着した不安です。

最近の自民党は、国民の不安に向き合ってこなかった。物価高にも、本当に苦しい方々が置かれている状況への想像力に欠けていた。だからこそ、国民は自民党にNoを突きつけた。

自民党の現状に、私は、強い危機感を持っています。自民党は、70年前の結党以来、歴史を重んじ、地域で

受け継がれてきた伝統や慣習を尊重しつつ、時代の変化に合わせて、必要な改革を実行することで、政権を託されてきました。

多様な意見に耳を傾けながら、一致点を見出す努力を重ね、国民一丸となって国を前に進めていく姿勢こそ、保守政党・自民党の神髄。

もう一度、国民の声を聞き、国民の不安に向き合うことで、国民の安心と安全を実現する政党に自民党を立て直す。

私は、その先頭に立つ決意で、総裁選に挑戦します。

小泉進次郎

① 物価高対策

物価高で生活が苦しいという国民の切実な声に向き合い、国民の暮らしに安心と安定を取り戻す。

日本経済はデフレからインフレへの移行局面。経済最優先で賃金上昇と投資拡大に取り組み、物価上昇を上回る国民所得を実現。

そのための第一歩として、直ちに物価高対策を中心とする経済対策を策定。ガソリンの暫定税率を速やかに廃止する。

また、インフレ時代に対応した所得税制の見直しを検討。官公需における価格転嫁の徹底により、中小企業の取引条件を改善。

物価高対策については、様々な提案があり、あらゆる選択肢を排除せず、政党間の協議を真摯に進める。

② 経済再生

世界は30年以上続いた「グローバル化の時代」の転換点。世界は自国の供給力・生産力を取り戻す時代。

市場・企業・個人任せではなく、国家もリスクを取ることで、企業の大胆な投資を引き出す。設備投資の即時償却の拡大など税制改革を推進。

生産力・供給力強化の基盤は地方。TSMCが進出した熊本、ラピダスが進出した北海道をモデルに、世界で戦える企業を地方に呼び込む。

③ 社会保障・教育

子供から子育て世代、お年寄りまで、全ての世代が安心できる、全世代型社会保障を実現する。そのために、与野党協議を真摯に進める。

医療・介護・保育・福祉・教育など公的分野で働く方々の物価上昇を上回る処遇改善の実現。

AI革命の加速を踏まえた、教育のレールの複線化など教育改革の検討。

④ 地方活性化(農林水産業・観光)

地域の雇用や産業、コミュニティを支える柱は農林水産業。担い手の確保、生産基盤の強化等とともに、世界とつながる取組を展開。

農林水産物の輸出を2030年度に現在の1.5兆円から5兆円へと拡大するため、輸出先の開拓、輸出先の輸入規制の見直しなど、政策を総動員。

コメは、意欲ある生産者の皆様の所得が確保され、不安なく増産に取り組めるセーフティネットを整備。

観光も地方の基幹産業。2030年に外国人旅行者の数を6000万人に増やす目標の実現に向けて、インフラ整備や地方の受入れ環境の整備、オーバーツーリズムの防止策などを推進。

⑤ 防災・治安対策

石破総理の方針を引き継ぎ、専任の大臣の下で十分なエキスパートと予算を有する防災庁を来年度に設立。国がリーダーシップを発揮し、必要な人員や設備を確保し、災害対応能力を大幅に向上。

一部地域では、外国人の不法就労や地域住民との軋轢、治安の悪化等により地域住民の不安が拡大。オーバーツーリズムや、外国人が不動産を買い漁っているのではないかと指摘もある。

外国人問題に関する司令塔機能を強化し、総合的な対策を推進。トクリュウ、ストーカー対策なども強化する。

⑥ 強い外交・安全保障

グローバル化で世界は一つという幻想は消え去り、地政学的リスクの高まりとともに、世界は群雄割拠、多極化の道を進んでいる。日本を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しい状況。

まず、強い日本を実現。我が国自身の防衛力を強化するため、防衛費対GDP比2%を着実に推進。経済最優先で強い経済を作った上で、民間企業の投資や技術、ODAを外交力として積極的に活用。

同盟国・同志国との連携を拡大。今後も日米同盟は日本外交の基軸。トランプ大統領と信頼関係を築き、防衛協力や経済安保協力を深化。

日米を基軸に、多様な同志国連携を拡大。特に日米韓の枠組みを強化。

インドや豪州を含むQUAD、先進国のG7など同志国との協力を強化。

拉致問題の解決にも全力で取り組む。

⑦ 自民党改革

国民の声を聞き、改革を実行する力の回復に向けた「なまごえプロジェクト」、車座対話の拡充。

自民党を一つにまとめ、誰もが期数関係なく、役割と責任を果たす一体感あるチームにする。若い世代が先頭に立って、責任を担っていく。

政治資金の透明化を徹底し、「政治とカネ」の問題が二度と起きない土壌を整える。

憲法改正についても、与野党の議論を呼びかける。

小泉進次郎

略歴

1981年 神奈川県横須賀市生まれ。関東学院大学経済学部卒業後、2006年 米国コロンビア大学大学院政治学部修士号取得。米国戦略国際問題研究所(CSIS)研究員、衆議院議員小泉純一郎の秘書を務めた後、2009年8月、衆議院議員に初当選し、現在6期目。家族は妻と二人の子ども。

主な役職歴

【自民党】

青年局長
農林部会長
筆頭副幹事長
厚生労働部会長
神奈川県連会長(現職)
国会对策委員会 副委員長
選挙対策委員長
政治改革本部 事務局長

【内閣】

内閣府大臣政務官 兼 復興大臣政務官
環境大臣 兼 内閣府特命担当大臣(原子力防災)[2回任命]
気候変動担当大臣 兼 務
農林水産大臣(現職)

【衆議院】

安全保障委員会 筆頭理事
安全保障委員会 委員長



小泉進次郎
公式サイト